

作成日：令和4年1月7日

第5回 高松圏域自立支援協議会 災害時ワーキンググループ

日付	令和3年12月8日(水)
時間	13:30~14:30
開催会場	かがわ総合リハビリテーション福祉センター 調理室
参加機関等	高松訪問看護ステーション、在宅療養ネットワーク、支援センターgaryu、高松市健康づくり推進課、高松市健康福祉総務課、高松市社会福祉協議会、高松市障がい者基幹相談支援センター中核拠点 順不同 計11名

議題1：モデルケースの進捗確認

議事	モデルケース4件の進捗状況をご報告いただく。 どのケースも第1希望は自宅避難で、自宅を出て避難することに対する準備は消極的であった。1つのケースでは自宅に倒壊の危険がある場合を想定し、避難所になる中学校へ下見に行くことが出来た。下見をすることで具体的なイメージが持て、ご家族も環境について質問することができた。 それぞれ進捗状況は異なるが、共通する課題が見えてきた。
----	---

議題2：モデルケースの取り組みから見えた課題について

議事	○普及啓発に関する事 ・災害の少ない香川県で災害時の備えの必要性を感じてもらうような情報発信が出来ていない。 ・高松市の保健師は対象者宅への全戸訪問ではない。保健師が関わっていないケースには情報が届いていない可能性がある。
----	---

	<p>○計画の更新や情報共有について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間経過とともに避難計画も変更が必要となる。いつ、誰が主体で計画を更新するか決めておくことが必要である。 ・保健師の立てた災害時計画を1年ごとに更新する予定だが、これまでに計画を立てているケースが少ないため1年更新が適切か判断しがたい。 ・これからの成長と共に障がい福祉サービスの利用、就学等を通じて関わる支援機関が増える。それに伴い情報共有先を広げる必要がある。 <p>○災害時にできる対応や活用できるツールについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難に必要な状況でも自宅から本人を連れ出すことが出来ず取り残される可能性がある。携帯電話の使用ができず支援者に連絡できない状況も想定し、外部にわかるSOS発信の方法を検討する必要がある。 ・災害時伝言ダイヤルのような、既存の資源を共有して災害時に備える必要がある。 ・自宅避難時に発動機ができること・できないことの整理をする必要がある。
決定事項	<p>今回取り組んだ4つのモデルケースを通じて見えてきた課題を協議会へ提言しワーキングとしては終結させる。</p>
今後の動き	<p>事務局で今日出た課題を整理するとともに、協議会へどのように提言するか検討する。</p> <p>提言方法等決まればワーキングの皆様へご報告させていただく。</p>